

施策マネジメントシート

基本施策名	03安心して子どもを産み育てられる子育て支援	施策統括課	子育て支援課	氏名	前田 佳美
政策名	21子育て・教育	主な関係課	児童青少年課、保育幼児教育推進課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象にしているのか)＊人や自然資源等
0歳から18歳までの子ども 子育て家庭(保護者含) 妊産婦(妊娠前含)

② 施策の目的
妊娠前から子育て期にわたる切れ目のない支援を通じて、親が子育て力を高めていくことによって、楽しみながら子育てをすることができるまちを目指します。

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア 未就学児童数	人
イ 未就学児童を持つ世帯数	世帯
ウ 6歳から18歳の子どもの数	人
エ 6歳から18歳の子どもの持つ世帯数	世帯
④ 成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない	
名称(展開方向ごとに記載)	単位
1ア 合計特殊出生率	
イ 子育てのしやすい環境が整っていると思う市民の割合	%
ウ この地域で今後も子育てをしたいと思う保護者の割合	%
2ア 待機児童数(保育必要量)	人
イ 乳幼児子育て支援事業参加者数	人
3ア 自己肯定感のある児童・生徒の割合	%
イ	%

2 第2次基本計画期間(令和2～令和9年度)内における取組内容

施策の展開方向		目的	手段(具体的な取組内容)
1	妊娠前から子育て期にわたる切れ目のない支援	家庭や地域の中で安心して子どもを産み育てられるよう、妊娠前から子育て期の切れ目のない支援により、子育てしやすい環境を整えます。	◆子育て世代包括支援センター事業を推進し、産後ケアなどの母子保健施策を充実させながら、妊産婦及び乳幼児の健康を守り、子育て支援施策と一体的に展開していくことによって、子どもが健やかに成長・発達ができるよう継続的・包括的に支援します。 ◆これから子どもを産み育てようとする市民の、子育てに関する制度への疑問や不安を解消できるよう、積極的な情報提供と相談支援を行います。 ◆親としての学び・成長への支援として、子育て講座や両親学級などの充実を図ります。 ◆子どもへの虐待予防対策を推進します。
2	多様なライフスタイルに対応した子育て環境づくり	子育て家庭の多様なライフスタイルに対応し、地域全体で子育てを支援する環境をつくります。	◆ニーズに対応した保育施設の拡充に努め待機児童解消を進めます。 ◆幼稚園が実施する長時間の預かり保育への支援を行うとともに、幼稚園の保護者に対するPRを支援することで、保護者に対して多様な選択肢を提供します。 ◆「国立駅南口子育て支援施設整備方針」に基づき、交流とにぎわいのある良好な子育て・子育て環境の整備に向けて取り組みます。 ◆子育て家庭を地域住民が見守り、協力する体制を推進します。
3	すべての子どもが分け隔てなく過ごせる環境づくり	すべての子どもがその生まれた環境に左右されることなく成長できるまちを目指します。また、成長・発達に配慮が必要な子どもと家庭に対し、早期からの支援により安心して子育てと子どもの成長を見守ることのできる環境の整備を図ります。	◆ひとり親家庭や生活に困窮している子育て家庭への自立支援施策や宅食等の食の支援の充実を図るとともに、子ども本人の生き抜く力を高める支援を行うことにより子どもの貧困対策を進めます。 ◆発達が気になる乳幼児の保護者の方へ「早期の気づき」に向けた取組を進めます。 ◆発達が気になる子どもについて、相談体制の充実を図るとともに、児童発達支援センターや市内の児童発達支援事業所などの関係機関や就学相談事業や教育相談事業との連携強化に努め、成長・発達に応じた切れ目のない支援の充実を図り、子ども・保護者のその意見を十分に尊重しながら発達支援の取組を進めます。 ◆子ども家庭部や教育委員会、健康福祉部など、複数の部署が関わる外国籍の子どもと家庭への相談体制については、「くにたち子育てサポート窓口」が関連部署を繋ぎながら、取り組みを進めていきます。 ◆認可保育園での医療的ケア児等の受け入れについて、調整指数による利用調整を前提としつつ、個別の相談や主治医、園医との情報共有等、きめ細かな調整を経る中で受け入れ体制を整えるなど対応を図ってまいります。

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

			単位	数値区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R9年度					
対象指標	ア	人	見込み値											目標達成度				
			実績値	3,442	3,420	3,494	3,426	3,385	3,237	3,031								
	イ	世帯	見込み値										達成・ 未達成	前年度 比較				
			実績値		2,703	2,737	2,668	2,642	2,564	2,415								
	ウ	人	見込み値															
			実績値				7,981	7,936	7,947	7,360								
エ	世帯	見込み値																
		実績値				5,423	5,371	5,383	5,001									
成果指標	展開 方向1	ア	成り行き値		1.26		1.27	1.28	1.29	1.30	1.31	1.32	未達成	低下				
			目標値	1.25	1.30	1.35	1.40	1.42	1.44	1.46	1.35	1.45						
			実績値	1.24	1.25	1.30	1.06	1.1	1.01									
			基本計画における 指標の説明又は出典元		合計特殊出生率 指標の説明：人口動態統計（東京都福祉保健局）における国立市の合計特殊出生率													
			イ	%	成り行き値												未達成	維持
					目標値	66.6	67.6	68.6	69.6	70.6	71.6	73.0			60.6	65.6		
		実績値			49.9	55.6	59.3	59.6	63.4	65.5	—							
		基本計画における 指標の説明又は出典元			子育てのしやすい環境が整っていると思う市民の割合 出典元：国立市市民意識調査（18歳以下の子どもがいて回答した市民を対象）													
		ウ	%	成り行き値		96.6	96.6	96.6	96.6	96.6	96.6	96.6	96.6	未達成	維持			
				目標値	—	97.1	97.6	98.1	98.6	99.1	99.6	100.0	100.0					
				実績値	96.6	96.6	95.5	95.0	95.4	96.4	95.9							
				基本計画における 指標の説明又は出典元		この地域で今後も子育てをしたいと思う保護者の割合 出典元：乳児・1歳6ヶ月児・3歳児健康診査問診票												
	展開 方向2		成り行き値										未達成	低下				
			目標値	—	100	53	0	0	0	0	0	0						
			実績値	109	124	81	46	27	12	15								
			基本計画における 指標の説明又は出典元		待機児童数(保育必要量) 指標の説明：各年4月1日現在、認可保育所入所希望者のうち、利用不可となった児童の人数(令和元年度から新定義)													
	展開 方向3	ア	成り行き値										達成	維持				
			目標値	76.6/65.8	76.9/66.1	77.2/66.4	77.5/66.7	77.8/67.0	78.1/67.3	78.4/67.6	87.0/74.5	88.5/76.0						
			実績値	76.5/63.9	80.9/68.7	85.8/73.6	86.5/71.8	—	80.9/77.5	76.7/79.3								
			基本計画における 指標の説明又は出典元		各年4月現在、全国学力・学習状況調査において自己肯定感がある(問：自分に良いところがあると思いますか)と回答した国立市の児童生徒の割合(小学校/中学校)													
	第1次基本計画 指標	人	成り行き値	3,437	3,437	3,437	3,437	3,437	3,437	3,437	3,437	3,437	未達成	向上				
			目標値	3,483	3,506	3,529	3,554	3,573	3,582	3,601	3,631							
			実績値	3,137	3,364	3,400	2,825	1,401	1,792	2,589								
		基本計画における 指標の説明又は出典元		乳幼児子育て支援事業参加者数														
		%	成り行き値															
			目標値	72.5	75.0	77.5	80.0	81.2	—	—	—	—						
	基本計画における 指標の説明又は出典元		発達支援室を利用している市民の満足度(R2で終了)															
	事務事業数				本数	63	61	61	61	61								
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	1,218,932	1,216,182	423,350		16,049									
			都道府県支出金	千円	1,167,519	1,140,953	266,628		215,760									
			地方債	千円														
			その他	千円	320,837	217,855	12,967		11,591									
			一般財源	千円	1,336,778	1,605,769	922,534		220,705									
	事業費計（A）		千円	4,044,066	4,180,759	1,625,479	0	464,105	0	0	0	0						
	人件費	延べ業務時間		時間	270,365	272,051	223,591		51,228									
		人件費計（B）		千円	1,048,563	1,015,302	840,300		163,738									
		トータルコスト(A)+(B)		千円	5,092,629	5,196,061	2,465,779	0	627,843	0	0	0	0					

4 施策の成果指標実績値に対する評価

(1) 施策全体の成果実績目標達成度 A(高度に達成)～E(ほぼ未達成) D:目標の多くが未達成であった
(2) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)～E(かなり低下) C:成果はほとんど変わらない(横ばい状態)
(3) 上記(1)(2)の理由・背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する) ・女性社会進出が進んだことにより、晩婚化・晩産化が進んでいる。多様な生き方を選択する人が増える中「結婚するしない、産む産まない」という個人的な選択への対応の効果は期待できない面がある一方で、国はそうした選択をする要因となっている育児に係る費用や手間への負担を軽減するための施策として「異次元の少子化対策」を打ち出している。 ・これまでの間、認可保育園を増設し、待機児童対策を進めたことで待機児童数は大きく減少している。また、年少人口の減少及び新型コロナウイルス感染症の影響もあり、定員が埋まらない園が増加している。 ・民間の発達支援事業所の充足に伴い、市の通所事業は令和2年度で終了している。発達支援事業所や市内の教育や健康福祉部門との発達支援における連携体制の構築を進めている。 ・改正児童手当関連法により、令和4年10月支給分より高所得世帯に対する「特例給付」が廃止された。 ・国立市で平成30年10月より、小学校6年生まで子ども医療費助成制度の所得制限を撤廃、令和5年4月より高校生相当まで所得制限なく医療費助成を拡充する予定。 ・平成29年7月より、子ども総合相談窓口「くにたち子育てサポート窓口」通称「くにサポ」にて、子ども・子育てに関する各種相談支援や「ゆりかご・くにたち事業(妊婦全数面接)」を実施しており、令和3年1月からは産後ケア事業を開始し、産前から子育て期に渡るまで切れ目ない支援への取り組みを進めている。

5 施策の現状 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

●展開方向1 ・平成28年(平成29年施行)に母子保健法、児童福祉法の一部改正により、妊娠期から子育て期に渡る切れ目のない支援を展開していくために「子育て世代包括支援センター」事業の展開が市町村に努力義務として課され、相談支援体制を整備していくこととなった。また、令和元年12月6日に公布された母子保健法の一部を改正する法律において、産後ケア事業が母子保健法上に位置付けられ、市町村の努力義務として全国展開を目指すこととされた。 ・令和4年4月から不妊治療が保険適用になったことに伴い、東京都の特定不妊治療の費用助成事業は令和3年度末で終了となった。 ・令和4年度より子宮頸がんワクチンの積極的勧奨が開始となり、令和5年度よこれまでの2価・4価ワクチンに加え、9価ワクチンが承認され公費の対象となった。 ・令和4年6月に児童福祉法の一部が改正され、子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化等が盛り込まれた。 ・令和4年6月に「子ども家庭庁設置法」と「子ども基本法」が成立。国は「こどもまんなか社会」を目指し子ども政策を推進するために、各府省庁に分かれている子ども政策に関する総合調整機能を一本化し、令和5年度に「子ども家庭庁」が発足することとなった。
●展開方向2 ・待機児童解消については喫緊の課題であり、社会問題のひとつとして早急な対応が必要となっているが、国立市においては、新規の園整備等を行ってきた結果、待機児童は大きく減少しており概ね解消状態にある。また、年少人口の減少や新型コロナウイルスの影響による保育需要の減少から、年度当初では全年齢で定員割れが生じている。 ・国立駅南口複合公共施設整備は、令和4年2月に「国立駅南口子育て支援施設整備方針」が策定され、令和4年4月より基本設計の業務委託が始まり、令和4年9月に「国立駅南口子育て支援施設基本設計」がまとまる。 ・令和4年4月より「くにたち未来共創拠点矢川プラス条例」として、設置条例が制定された「矢川プラス」が開設。
●展開方向3 ・平成24年4月に児童福祉法が改正され、障害種別で分かれていた施設体系が通所・入所別により一元化され、障害児通所施設の実施主体は市町村に移行され、児童発達支援や放課後等デイサービスなどが位置付けられた。それ以後、児童発達支援・放課後デイサービスの事業所数は全国的にも増加傾向にある。 ・平成26年の「母子及び父子並びに寡婦福祉法」及び「児童扶養手当法」の改正により、支援体制の充実、就業支援施策及び子育て・生活支援施策の強化、施策の周知強化、父子家庭への支援の拡大、児童扶養手当と公的年金等との併給制限の見直しが実施され、ひとり親支援施策が拡充されている。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

・議員より、多胎妊婦や多子世帯への支援の充実を求める声がある。 ・市民及び議会から、待機児童解消の要望がある。各保育園からは定員割れに対する対策の要望がある。 ・事業対象者(市内幼稚園・保育園・学童保育所)から、児童発達支援について巡回相談の拡充を求める意見がある。 ・議員より、児童虐待防止に向けた取り組みの推進、子どもの人権に関する条例の制定について検討を求める声がある。 ・市民及び議会から、教育と福祉の情報を共有するツールの作成を求める声がある

(3) この施策に関して他自治体の取組状況と比較して国立市の取組状況はどうか？

・産後ケア事業は、令和3年1月より、宿泊型、通所型、訪問型を26市の中でも先がけて3類型を同時に開始している。 ・医療ケア児の受け入れを行い、実践を踏まえる中で、医療機関や訪問看護事業所と連携し、就学に向けての検討を行い、市独自の支援体制の構築を図っている。

(4) 施策の具体的な取組状況

4年度の取組状況	5年度の取組予定
・基幹園に関する一定の方向性の整理。 ・保護者の保育ニーズも満たしつつ、市内保育園が定員割れしている状況も踏まえた市内全体の保育定員の整理 ・年少人口が減少局面にある現状を踏まえ、幼稚園も含めた市内保育幼児教育施設の在り方について、市としての基本的な考え方を定め各園からの相談に応じる体制を整える。 ・医療的ケア児保育園入所に係るガイドラインに沿った入所に向けた支援 ・矢川保育園民営化の効果検証方法の検討	・国立駅南口複合公共施設整備基本計画に沿った子育て支援施設の整備。 ・くにたち教育総合センター開設に伴い、サポートブックの改訂。 ・国立市しょうがい児福祉計画に位置付けられているしょうがい児支援の提供体制の整備を図るための関係機関の協議の場を設置するための準備を教育・福祉部局と進める。 ・発達関連事業所との事業所フェアの開催 ・全ての妊婦や子育て家庭を対象に、妊娠期から子育て期にわたるまでの一貫して身近に相談に応じ必要な支援につなぐ伴走型支援事業の実施。 ・教育と福祉部門との連携により、関係機関で情報を共有し支援に活かすためのツールを検討する。 ・産後ケア事業の拡充 ・ひとり親世帯の住宅費助の在り方について、福祉部門の住宅費助成制度も含めた協議の場の検討。 ・子ども家庭支援センターが本庁に移転し、子育てひろばの運営を事業団に委託するにあたり、定期的な連絡会を設け連携を図る。 ・養育訪問支援事業(要支援家庭へのヘルパー派遣)
・「くにたち発達サポートブック」の配布と活用 ・発達関連事業所との事業所フェアの開催 ・発達関連事業所の情報をまとめたリーフレットの作成 ・発達相談における教育と福祉(しょうがい)の連携 ・「産後ケア事業」の拡充 ・ひとり親世帯の自立支援に向けた養育費確保支援事業の拡充	・基幹園に配置予定の保育ソーシャルワーカーの役割について研究を行う。 ・保護者の保育ニーズも満たしつつ、市内保育園が定員割れしている状況も踏まえた市内全体の保育定員の整理。 ・年少人口が減少局面にある現状を踏まえ、認定こども園化移行支援対象施設選定事業を実施し、認定こども園化を希望する市内保育幼児教育施設の支援を行う。 ・医療的ケア児保育園入所に係るガイドラインに沿った入所に向けた支援及び園に在籍する医療的ケア児及び受け入れ園への支援。 ・矢川保育園民営化の効果検証方法の検討・決定。
・第3次子ども総合計画期間が、令和5年度に終了し、第2期子ども・子育て支援事業計画が令和6年度に終了するが、この2つの計画を計画期間も含めた整合を検討。 ・子育て応援アプリによる子育て支援情報の発信、次期アプリ運営事業者についてプロポーザル方式により選定	・第3次子ども総合計画期間が、令和5年度に終了し、第2期子ども・子育て支援事業計画が令和6年度に終了する。この2つの計画期間を整合し、令和7年度より一本化した次期計画を策定することを予定しており、これに向けて市民ニーズ調査を実施する。 ・次期子育てアプリの運営開始、アプリによる子育て支援情報の発信。

6 4年度の評価結果 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等)※基本的に展開方向ごとに記載

総合基本計画に照らして評価する(目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か)

○成果実績

【展開方向1】妊娠前から子育て期の切れ目のない支援

・子ども総合相談窓口「くにサポ(くにたち子育てサポート窓口)」において、妊娠期から子育て期に渡る子ども・子育てに関する相談を幅広く受け付け、コロナ禍における面接や訪問の代替手段としてタブレット端末を活用し、支援が途切れないう努めるとともに、両親学級や離乳食教室の動画配信を行うなど、ITを活用した社会資源の提供を行った。

【展開方向2】多様なライフスタイルに対応した子育て環境づくり

・医療的ケア児の受け入れに向けた各保育園等に対する研修を実施するなど、支援体制をさらに充実させ、子育て家庭の多様な状況に対応し、地域全体で子育てを支援する環境づくりに取り組んだ。
・国立駅南口複合公共施設整備事業については、令和4年2月に「国立市駅南口子育て支援施設整備方針」を策定し、整備に向けたコンセプト、導入機能、及び管理運営などについての方向性を定めた。
・矢川複合公共施設「矢川プラス」については、令和4年度に竣工。運営については、指定管理者としてくにたち子どもの夢未来事業団を選定した。
・矢川複合公共施設「矢川プラス」については、令和3年6月より建設工事に着手し、令和4年11月に竣工。「くにたち未来創造拠点矢川プラス条例」を制定し、運営については、指定管理者としてくにたち子どもの夢未来事業団を選定した。

【展開方向3】すべての子どもが分け隔てなく過ごせる環境づくり

・教育委員会、健康福祉部門と共同で就学支援・発達支援に関する情報をまとめた「くにたち発達サポートブック」を作成し、年長児のいる世帯や3歳児健診で配布した。
・児童発達支援センターや児童発達支援事業所の通所に必要なしやがいしゃ支援課で交付している受給者証の申請受付を子ども保健・発達支援係(保健センター)でもできるように仮受付を実施した。
・児童発達支援センターや児童発達支援事業所、放課後等デイの事業所と共同で事業所フェアを開催し、市民に発達支援に関わる機関を広く知ってもらう機会になった。

○改善余地のある事項・課題等

・待機児童対策を進めてきた結果や年少人口の減少などにより、各保育園の定員割れが起きており、私立園の経営を圧迫しており、対応策を継続して検討する必要がある。
また、年少人口が減少局面にある現状を踏まえ、幼稚園も含めた市内保育幼児教育施設の認定こども園化支援事業を本格的にスタートさせ、認定こども園化を希望する園の支援を行い、保育幼児教育の質の維持、向上を図る必要がある。

・0から18歳までの切れ目のない子どもの発達支援を図るために、教育委員会や健康福祉部門と一層の連携強化を図り、個別の支援について情報共有の在り方を検討し、子どもの発達に関して多様なニーズを抱えた保護者支援への取り組みを進める。

(2) 施策の4年度における総合評価

C	成果実績数値の評価(A～E)に、4(3)及び6(1)の定性的要素を加味した評価
	A:目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。
	B:一定の成果を挙げているが、向上・改善の余地がある。
	C:成果向上のため、一層の努力が求められる。
	D:成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。
	E:現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。

7 施策の課題・今後の方向性 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 6年度の取組方針

・認定こども園化支援事業を始めとした年少人口減少や新型コロナウイルス感染症等の影響による定員割れに対する支援について継続して各園と協議。合わせて地域子育て支援事業等の市内保育幼児教育施設と連携した子育て支援策の充実について検討を進めて行く。
・矢川保育園民営化の効果検証の実施。
・くにたち子どもの夢・未来事業団が運営する矢川プラスの実績を基に、国立駅南口子育て支援施設の管理運営方針の策定。
・第3次子ども総合計画と第2期子ども・子育て支援事業計画を統合した新たな次期計画の策定。
・医療的ケア児に対するライフステージごとの支援体制の構築
・産後ケアやヘルパー派遣等、産前・産後支援の充実
・伴走型支援事業の充実

(2) 中期的な取組方針(概ね実施計画期間を想定)

・矢川プラスと国立駅南口子育て支援施設の特色を活かした子育て環境の充実
・子育て世帯のニーズに即した一保育事業の見直し・検討
・矢川保育園・矢川プラスの運営を始めとくにたち子どもの夢・未来事業団への運営支援
・産後ケアやヘルパー派遣等、産前・産後支援の充実